

No. 81

1987  
No. 81

津田尚美方 (TEL

編集人：葛西よう子 千

換札するんはトにおかれて、アサウサの太鼓を打つ  
紙音デ、は高個で切れやすく、揃果成むすばいゝ。時  
向着想を五十分とた所で、アサウサがとらう。又、直

NBC(長崎放送)との出合いは？  
昭和三十一年民間放送が生まれ翌  
三十二年NBCが設立。一朗生とも入社  
しました。当時は大伴俊次と目玉の  
若人生で、ハイトのつもりで受験し、社員  
として入社。柳田有司属となりました。  
採用された十五名の内、十は大名、色々の  
私をを持つ人達で、ミセも入りました。  
「民放とは何か」と手まくりを番組作り  
をした日々は創造のまごころにあふれ  
ていました。半年間は休みなし、十日中  
の徹夜はザラ。社員食堂のモチおんと  
四うとんだけ食べ過ぎす日々でした。時

「ぼんやマンの会」十一月創会は、松達の仲間であり、「ぼんやマン会」創業者の一人である宮本圭子さんのお話を聞きました。仲間として日頃親しく接していても、ちゃんと仕事の話はきかぬ位を聞きますものはじめてです。宮本さんの「あり方」通して地域の問題、文化の問題、セの問題、すべて出さう衣と言え、その多くの数時間でした。

長崎の働く女性のバイブル  
一民間放送の伝説と栄に  
おやんだー

宮本圭子  
さん



レ 齋組は自主放送など、徹夜で働く望願派です。という事もありました。労働条件の悪化に同僚達が次々と退社して行く中を忍ばれたのは、苦しみだつたとつくづく思います。

当時のレディはこううかづかれないさうで、すぐわかるのが、極みの種。昇格後位に、ラオオのネドワークが生まれ、一息つき、まじやうと認められる様になりました。

昭和三十四年、テレビ新聞局員より企業として安定  
し今の割合も出来まされた。それから三年程テレビ  
の仕事をしていました。自主制作の多いラジオに比し  
て面白さは今一つ、前住者退勤後を受けて、今  
いるゴールド座に移りました。三の仕事は資料とよめる  
二に地域の資料として価値があると、仲間面白く仕事そ  
ろ、十八年の過ぎました。

現在在道称「音楽デスク」社内の地位としてはラジオ  
室担当部長、部長である事のメリットは内外の情緒が  
見える事と、快楽の場への参加です。

そして制作するミュージックにはほとんどつき合ってますし  
た、ミュージック番組は歌謡曲からクラシック迄、全部カバー  
します。五年程前から、ラジオは生中（リアルタイム）で  
やる方針なので、それも有り、生中と面白いです。

その他仕事としては音楽イベントの企画、年末企画、年末の企画  
が万五千枚と云うラジオの管理、音楽番組のチェック、タレ  
ントと音楽企業（三才のレコード会社、百以上のプロダクション）との





1986年5月上旬实施

緑中3年生4クラス 提出数 女子・75名 計155名  
男子・80名

Q1.女性の自立に関するもの (質問内容については、別添資料参照)			
	女	子	男 子 3を除く
1.女性の自立が必要	52名(69%)	27名(36%)	39%
2.女性に家庭へ	23名(31%)	46名(57%)	61%
3.無答・わからない		5名(7%)	

  

Q2.男女差別がおこなわれなければならない理由(女が男より劣っている点)がありますか? あつたらきなさい			
	女	子	男 子
1.特にない	5/名(68%) 74%	6/名(76%)	85%
2.あ る	18名(24%) 26%	11名(14%)	15%
3.無答・わからない	6名(8%)	8名(10%)	

  

2.その理由・女子		男子	
ア、体力・力など身体的な面	2	ア、体力・力など身体的な面	5
イ、性格面(自分中心など)	2	イ、出産などで責任ある仕	3
ウ、社会がそうきめている	2	事がまかされない	
エ、生活力がない	2	ウ、歴史をつくっていった	2
		エ、男が働く社会	1

◎ 感想文（男子）＝感想文の一部分＝

- A、男女差別はもともとなくて、親や教師からうえつけられたもので、自分たちの代からは、そのような教育をすればよい。
- B、女は男より、責任のない仕事をする人が多いから、差別があると思う。
- C、一家庭で、お母さんの役割、お父さんの役割をきめたり、子どもの場合なら「女の子だから手伝いなさい」というのはいけないと思う。したがって、男も、家事・育児ができなければ自立しているとはいえないと思う。
- D、一女性の場合、男性よりも軽い職業につこうという人が多いから（差別が）おこるのではないかと思います。女性ももっと責任ある仕事にどんどんつくこと…。
- E、婦人も一生懸命やれば、なんでもできると思う。女の人のすべてとはいわない

が、男女差別といっているわりに、自分の努力がすこしたりしないのでは・

- f、仕事の種類など今まで男しか出来なかったものに、どんどん挑戦すればよい。  
そして、男よりすぐれた面であんばればよい。男の中には「仁義」だといって女の人を働かせない人がいるが、もう古い。
- g、僕の家では、父が家で店をしていて、母が働きにいらっているので、夕食や洗濯などは父がなんでもしてくれます。このように男でも女でも、どちらでも自立して生活してゆけるようになれば、男女差別も少しはまどなると思います。
- h、女の人には子どもを育てばいい。働きたい人は働けばいい。
- i、男が働いて帰ってきて、腹もへっているだろう時、奥さんが帰っていないからいらつくだろう。ちゃんと家事もし、早く帰ってくるのならよいが、やっぱり女性は働かない方がよい。
- j、…一般的にみて、やはり女だって男より劣っていると認めていると思う。独断かもしれないが、こんなあたり前のことで婦人問題だとさわぐのはおかしい。女は男と平等だといっているが、現実的にみて、何百年たとうと男が活躍するのは変わらないと思う。体質的にも、精神的にも女は男よりも劣っている。

「眞の男や平等の視念に立つ。労働観、価値観をもとめよ」と題して昨秋、市立緑が丘中学校的の能江秀彦先生の社会の研究授業をうかがふした。「男や雇用機会均等法」と宗し、何故男は社会に出るべきか、女は社会を辞めろ」といふ男が、一般化したのか？を歴史時代から現代までの「女性の地位の変化」と資料をもとに習し、授業終了後

左記のアンケートを行い、感想文をまわせた。いつもの如く、中絶生の  
男の子の感想文をもも、男の子達の考への一助を知りたいと思ひます。  
落念最上とはササの感想文の都と記します。さうだから、男の子だから  
とよめける言葉を使ふかういふ頃かう男の子が主と考へれば相合はしうと  
社会でもひんがうものだと思ひます。………